

シリーズ 地域の達人

未来のファーブルに聞く。



吉田 貴大

よしだ たかひろ



三田市在住、18歳。

現在受験勉強中の高校3年生。取材の日は、レッドデータブックに載っている、オオチャイロハナムグリを持ってきてくれました。「アミが破れたら、自分で治します。虫屋は裁縫ができるんですよ。」

安達 誠文

あだち まさふみ



西宮市在住、18歳。

同じく受験勉強中の高校3年生。中国大陸から飛んでくる蛾、偶産蛾を見せてくれました。興奮した一品！だそうです。「虫屋は虫を除けば、普通の人です。」

9月20日から「ひとはくファーブル大作戦！」が始まりました。メイン企画「昆虫記刊行100年記念日仏合同企画ファーブルにまなぶ」展では、身近な生きものや環境を観察し続け、ファーブルが採集した昆虫などが展示されています。その、ファーブルの展示にちなんで、「未来のファーブル」の青年たちにお話を聞きました。取材に協力してくれたのは、ひとはくのセミナー「ユース昆虫研究室」のOBや、虫好きの高校生・大学生で構成する、ひとはく連携活動グループの「テネラル」から、昆虫大好きな、高校3年生の2人です。

未来のファーブルになったきっかけ

吉田：多分、幼稚園ぐらいから昆虫が好きになりました。特に、甲虫とカメムシとガとかが好きです。初めて、人と自然の博物館へ昆虫の事で来たのは小5です。夏休みの子供相談室で標本のことを研究員の先生に相談に来ました。

安達：僕も幼稚園ぐらいから好きになりました。母さんの弟がクワガタ採りに連れて行ってきて、木を蹴ったりする採集とかにハマって、それ以来虫が好きになりました。この博物館に来たのは確か中3の頃、八木先生の昆虫のセミナーがあったんで面白そうやなと思って。

未来のファーブルの生活

吉田：安達くんとは、中3の時、ひとはくのユースセミナーで一緒になって。それから、安達くんや虫採り仲間と武田尾とかへ行くようになりましたね。高校生ですから、車が使えないので電車で行くとしたらやっぱり武田尾かなと。

安達：武田尾は、特殊な環境なんですよ。サツキやシモツケっていう岩場にしか生えない植物が生える所で、この植物にしか来ない虫がいるんですよ。それで兵庫県では、ここにしかない虫がいるので、それを狙いにいったりしてます。蛾は夜が狙い目なので、野宿することもあります。夜7時集合で次の日の朝までとか。

一緒に泊まって、虫採りができる友達がいるのがいいですね。

吉田：今は、受験生なんで、自粛してますけど。受験じゃなかったら、今頃、どっか行ってるでしょうね。もし、車とか飛行機なんか自由に乗れるようになったら、沖縄とか信州とか東北も行きたいです。普段は、普通の高校生です。学校では、標本作ってまでの虫屋はそんなにいないんで、昆虫の話は隠してます。八木先生のセミナーに参加して、同じ趣味を共有し合える友達できました。

未来のファーブルが虜（とりこ）になる

吉田：僕が昆虫を好きなのは、多様というか、いくら採っても初めて見る種はいくらでも採れるじゃないですか。興味がありますね。一日、見ても飽きない。僕は結構なんでも採るんで・・・一番ハマってるのは、チビオオキノコムシっていうオオキノコムシ科でトリトマっていうんですけど、つやつやしてて、キノコに来るんですよ。小さいやつで色とりどりで、キノコに生きているやつです。キノコもいろいろあるじゃないです

か。種類も多様化してるんで、キノコには違う種類がたくさんある…。（と話は続く…。）昆虫は、なんでも好きなんですね。

安達：莫大な数と種類ですかね。蛾は、すごいじゃないですか。蝶なんかは、ほんのちょっとしかいないんで、蛾とかは軽く日本に5000種を超えるのですごいなあと。模様の綺麗さとか。よく見たらきれい。そういうのから昆虫、蛾に魅力を感じてます。マイナーじゃないですか。蝶の愛好家は、昆虫界の中でも多いんですけど、蛾は種類が多いのにもかかわらず、愛好家が極端に少ないんです。逆に、そういうマイナーで光の当たらないような昆虫の方が好きです。

未来のファーブルの将来は？

吉田：仕事に就くことが難しいって、みんな言うんですけど、将来はひとはくの八木先生みたいにやっていけたらいいと思うんです。今は、昆虫の研究が、盛んな大学へ進学を希望しています。安達：今の希望している進路は、蛾とかよく研究している大学へ行きたいですね。ずっと、虫に関わっていけたらいいかな。

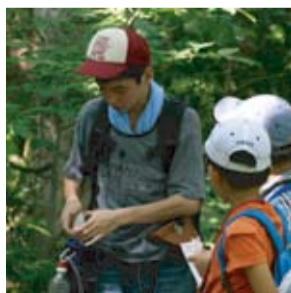
未来のファーブルから：

吉田：虫採りをしてたら、自然破壊はやめろとか言われることがあるんです。クワガタとかを採るのに、木とかをむちゃくちゃにするようなのはダメだと思います。一部の人が自分勝手に虫採りをしてますっていう、そういうのは僕らもダメだと思うんです。僕らのやってる採集は採りすぎても、環境に関係ないんですよ。その分研究して、為になることをしたいんです。採っても良い場所、採っても良い種類を採る分には自然破壊でもないし全然問題ないことですから。それを理解して欲しいですね。

安達：自然破壊とかって、虫の命をとって殺して、なんか、自分の欲求みたいな感じで虫を殺して標本にしてるみたいな。それに対する答えが見つからないんですよ。何のためにそれをしているのかっていうのが、僕は分かりません。

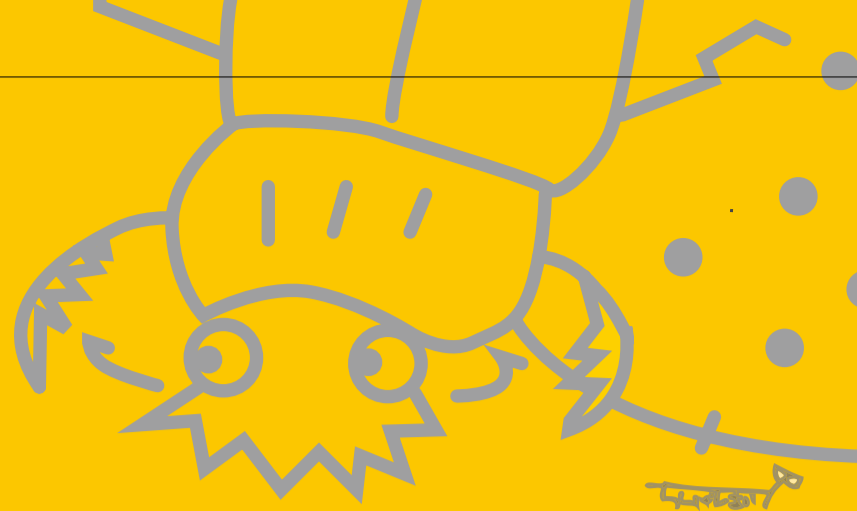
ファーブル展を見てハマってくれる人、ひとはくのセミナーに来るようになればいいなと思います。今、八木先生や沢田先生がセミナーをやってますけど、あんなセミナーが、一番、昆虫少年に影響が大きいものだと思うんですよ。

吉田：ファーブル展を見て、セミナーを申し込むっていう、なんらかの影響があったらいいなと思います。虫採りは危険じゃないですよ。年齢や性別に関係なく、虫に興味を持ってもらえたらと思います。



写真上/小学生にお手本
写真下/灯火採集の様子

ファール大作戦！では、 あなたの作品、 お待ちしております！



例えば、こんな感じのものです。

ひょうごのファール・未来のファール



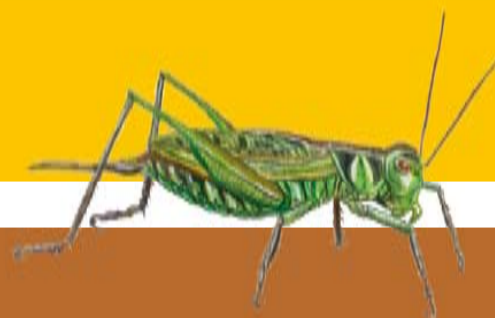
「昆虫記」を記したファールは、生涯にわたって、身近な生きものや環境を観察し続けました。そのファールがつくった100年前の標本が、この秋、ひとくはくに来てきます。そこで、ファールの作品とともに、みなさんの観察、発見を、ひとくはくで展示しませんか？「この夏はこんなことを観察をしたよ」「とっておきの私の一品」などなど、みなさんのすてきな発見を、この機会にぜひご紹介ください。

対象：赤ちゃんから大人まで、どなたでも（高校生以下は「未来のファール」として紹介します）。応募は1人1作品とさせていただきます。

募集作品：現物資料（標本・模型）または写真、絵画、イラスト（デジタル含む）。現物資料は1辺15cmの立方体ケースに入るもの。写真、絵画、イラストは、1辺30cm程度の正方形で展示します。プリント写真、絵画、イラストは、必要に応じてこちらでスキャンしたものをプリントして展示します。特に指定がない場合は、担当者が正方形に切り抜きます。

- ※ 作品は原則として展示しますが、応募多数の場合、展示期間が限定される場合があります。
- ※ 現物資料を展示するケースは博物館で用意します。
- ※ 生きている個体、生ものは展示できません。
- ※ 作品の返却：デジタルデータは返却しません。現物は、12月6日（土）から21日（日）の間の、開館日、開館時間中に博物館へ引き取りにお越し下さい（郵送しません）。それ以後は廃棄されます。
- ※ 肖像写真、氏名、居住地（市区町村まで）は、作品のキャプションとして作品とともに展示します。また、博物館のWebサイトや報告書等の印刷物に無償で掲載、公開することがあります。その他の個人情報公開せず、ひとくはくファール大作戦！の実施にのみ使用します。
- ※ 応募作品の取扱には十分注意しますが、破損、盗難等の事故に対する責任は負いかねますのでご了承ください。

[お問い合わせ先]
兵庫県人と自然の博物館 生涯学習課
〒669-1546 三田市弥生が丘6丁目 電話: 079-559-2003
ひとくはくファール大作戦スペシャルサイト
<http://hitohaku.jp/daisakusen>



「昆虫記」刊行100周年記念日仏共同企画 ファールにまなぶ 最新情報！



昆虫記刊行100周年記念「ファールにまなぶ」展が開催されています。最後の開催地になるひとくはくでは、兵庫オリジナルの展示コーナーやイベントを盛りだくさんに用意して、ひとくはく全体がファール一色となる「ひとくはくファール大作戦！」として開催しています。ここでは、ひとくはくオリジナルのコーナーやイベントの最新情報を紹介しましょう。



兵庫のナチュラルリストたち

60年前の宝塚の昆虫採集記録を残した手塚治虫の昆虫ノートや、篠山で虫の観察に熱中した水木しげるの昆虫絵巻など、虫や自然を愛した兵庫ゆかりのナチュラルリストたちを貴重な資料や写真等で紹介する展示コーナーを制作中です。日本のファールとも言える偉人たちの姿を通して、「ファールにまなぶ」展を鑑賞してみると、きっと新たな発見があるに違いありません。



写真上／とんぼの目
写真中／むしのからだ
写真中／みくるぼりす

昆虫不思議ラボ

虫の目をよーく見ると、小さな六角形の粒がたくさんありますね。実は、この粒1つ1つが目で、虫はそれが集まった「複眼」で世界を覗いているのです。このコーナーでは、虫の複眼の世界を体験できる「トンボの目」など、遊びながら昆虫の不思議を体験できる展示物を準備しています。すべて新

しい試みの展示です。ファールのように昆虫の不思議発見に挑戦してみてください。

フランス・アペロン県との国際シンポ

ファールの生まれ故郷の同県は兵庫と姉妹県です。そこで、ファール展関連イベントとして、同県知事とファール生誕地にあるマイクロポリス館（昆虫博物館）館長を講演者にお招きし、淡路島で国際シンポを準備しています。シンポは10月4日、夢舞台国際会議場で開催します。ぜひ、ご参加ください。

他にも、県民の発見を公募展示する「ひょうごのファール・未来のファール」や福音館の昆虫絵本をあつめた「ファール図書コーナー」など、ひとくはくオリジナルのコーナーを準備。250回以上のイベント開催の準備も進めています。秋は、ひとくはくファール大作戦！。皆さまのご来館をお待ちしております。



写真／ファールの生家の村